夏休みの記事募集中！

今なら採用される率高めです　これが最後の宿題！？

夏休みの自由研究や夏休み中に調べたり、取り組んだこと、出かけたことなどをテーマに記事を書いて送ってください。【記事について】文字数は400字くらい。記事に合う写真も付けてください　【締切日】2009年8月21日（金）【記事の送り方】住所、名前、学年、電話番号を書いて、記事・写真といっしょに、信濃毎日新聞地域活動部へ郵便（〒380-8546長野市南県町657）か、ファクス（026-236-3193）か、電子メール（t-chiiki@shinmai.co.jp）で送ってください　【掲載について】応募の記事の中からいくつかを「信毎こども新聞」のページで紹介します　【問い合わせ】信濃毎日新聞地域活動部　TEL026-236-3110

全員にオリジナルグッズをプレゼントするなーの

こども記者、活躍中です。

▶ 2009年7月30日（木）付ＮＩＥ全国大会の別刷り新聞より

ＮＩＥ全国大会の初日、７月３０日に信濃毎日新聞と一緒に折り込まれたＮＩＥを特集した別刷り新聞で、こども記者たちの活動の様子を紹介しました。別刷り新聞は、信毎を購読している各家庭へはもちろん、ＮＩＥ全国大会に参加した全国の小中学校の先生や新聞関係者らに配られました。

こども記者
小学生が熱心に取材

子どもたちが科学の楽しさを体験する「信毎こどもスクール」や、日曜日に掲載する「信毎こども新聞」では、小学生の「こども記者」が活躍している。４回目のスクールで記事を書いた溝口紗彩さん＝岡谷市、小５＝と、百瀬瑛太郎君＝塩尻市、小６＝もこども記者の仲間だ。

こどもスクールでは、２回目から参加者の中で記者に挑戦する小学生を募った。新聞記者が講演や実験の内容を紹介するだけでなく、実際に実験してみた子どもたちの生の声をこども新聞で紹介。ノーベル化学賞の白川英樹さんを招いた３回目のスクールは、小学生には難しい内容もあったが、熱心にメモを取って記事を書いていた。

なるべく多くの子どもたちに挑戦してもらおうと、５月には取材教室を開催。４回目のこどもスクール講師の松本徳重さんの話を聞き、質問をしてその場で原稿を書いた。最初は緊張していた子どもたちも、相次いで質問し直し、それぞれに工夫した記事をまとめた。

取材教室の「編集会議」で役割分担を相談するこども記者。記事の書き方、取材の仕方などを学んだ

けんび鏡で観察体験

岡谷市長地小５年　溝口　紗彩記者

私は、信毎こどもスクールで、電子けんび鏡を初めて見ました。電子けんび鏡は高さや奥行きが50センチぐらいの箱型です。メーカーの人に聞いてみたら、ねだんは495万円で、重さは83キロもあることが分かり、びっくりしました。

電子けんび鏡は、見たい物を入れて中を真空にしてから見ます。見たい物に電子ビームを当てて、だんだんかく大します。電子けんび鏡の倍りつは、1万倍もあるそうです。

電子ビームで倍りつ1万倍

電子けんび鏡なら、ふつうでは見ることができないすごいえい像が見られます。例えば、チョウの目。複がんをかく大していくと、たくさんの目の間にちょっと細長く飛び出しているものも見えます。

それから、最初は赤ちゃんのね顔みたいだなと思って見ていたのが、ピントが合ったらアリの顔で、思わず「わー」と言ってしまいそうなほど、びっくりしました。

のぞけばのぞくほど楽しくなったミクロの世界でした。

塩尻市広丘小６年　百瀬瑛太郎記者

レーウエンフックさんを知っていますか。350年前、世界で最初にけんび鏡で微生物の世界を見た人です。今回のこどもスクールではレーウエンフックさんが考えたけんび鏡を使った体験教室を行いました。

このけんび鏡はプラスチックの名札のような縦9センチぐらいの円形で、完全な球体のレンズが一つはまっている仕組みです。150倍の大きさで見ることができます。

ミドリムシの動きくっきり

はじめは紙で、小さくちぎって、けんび鏡で見ると、糸のような物がたくさん重なっていました。

ミドリムシは肉眼では見えません。とう明なうすい板にはったシールの真ん中の穴に、ミドリムシがいる水を数滴入れます。けんび鏡に固定して見ると、動いているのが分かります。

葉の気孔は直接見ません。葉の気孔とは、葉が呼吸する所で、マニキュアか木工用の接着剤をぬってかわかし、それをつまようじできれいにはいで見ます。気孔はドーナツ形をしていました。マニキュアをはがす時は特に難しかったけれど、実験はとても楽しかったです。

取材を終えて

読む人のこと考えて書く

学校では放送委員で、児童会のテレビ放送でカメラや音を担当するのが楽しいです。将来はテレビ局関係の仕事がしたいです。取材や記事を書くことも楽しそうだったし、理科が好きなので、「取材教室」と「こどもスクール」に参加しました。

取材教室では「読む人のことを考えて書くことが大切」などと教わりました。松本先生が見せてくれた実験で大きな音を出したアルミの棒はどこで買えるのか、聞きました。家で実験をしてみるときに、アルミ棒を買ってこないといけないからです。アルミ棒はホームセンターで買えるそうです。

こどもスクールでは、けんび鏡の実験の取材をしました。永山先生に聞くと、使ったけんび鏡は特注品で「店では売っていない」そうです。永山先生に取材した時は、緊張したけれど、ていねいに答えてくれて、自信がつきました。

話を聞くには勇気が大切

私は新聞づくりが好きです。特に、みんなが思わず見ちゃうような見出しを考えたり、描いたりするのが楽しいです。取材は知らない人に聞かなきゃいけないから大変だけど、新聞にできるとうれしくなります。

「こどもスクール」で取材した電子けんび鏡は難しいテーマと言われていたので、永山国昭先生のお話のメモはがんばって取りました。分からないことがあってもメモをやめると追いつかなくなっちゃうからです。あとで見ると、分からない字もありました。

「こども取材教室」では、取材は緊張するかもしれないけど勇気が大切だと教わりました。永山先生は怒れば怖そうなイメージだったけど、取材では自然に質問でき、先生にもやさしく答えてもらえてよかったです。

将来の夢はたくさんありますが、新聞記者もいいなと思っています。

こども記者体験 松本市開智小５年の中村さん

「ナノやピコより小さい単位はどんなものがありますか」。第４回信毎こどもスクールに参加した松本市開智小５年の中村恵理子さんは、スクール終了後、講師の１人で電子顕微鏡研究者の永山国昭さんに近づいて質問した。

聞いたことは手元の「取材ノート」に書き込む。家に帰ってから大学ノートにポイントを書き直している。今回、永山さんが教えてくれた「ミクロの世界」を、夏休みの自由研究でも調べてみようと思っている。

中村さんは「理科が大好き」。科学者やデザイナーになるのが前からの夢だったが最近は「新聞記者」も夢の一つに加わった。信濃毎日新聞の「信毎こども新聞」で、こども記者に挑戦してからだ。

昨年夏のこどもスクールに参加して、体験記を書いて送った。

信毎こどもスクールのポイントなどを書いたノートを開く中村恵理子さん

記事に反響「自信が付いた」

新聞には載らなかったが、「こども記者」コーナーの記事を依頼され、授業でも調べた松本市内のわき水のことを紹介した。

あらためて、わき水をくみに来る人に話を聞いてみた。初めてのインタビュー取材は大変だったし、記事を分かりやすく書くことが難しくて苦労した。原稿に間違いがないよう何度も確認し、自分が書いた記事が新聞に載るまで「ドキドキした」。

記事が載ると「すごいじゃん」「知らないことが書いてあった」と、学校の先生や友達、近所の人などが声を掛けてくれた。

中村さんは「反響があってうれしかった。自分に自信が付いた気もする。記事を書くことや学校でみんなの前で発表するのが、前よりうまくできるようになったと思う」と話す。

こども記者としてまた記事を書いてみたいという。テーマは「探し中」だ。

信毎を取材してみよう！
信濃毎日新聞社を見学しませんか？

●信毎の長野本社で、記者たちが実際に働いているのを見てみよう！　参加人数は一人～家族・クラス・学校単位でもOK。見学時間は平日10:00～15:00（土日祝・年末年始を除く）。見学は無料。事前に予約が必要です。【長野本社見学の申し込み】信毎読者センターTEL026-236-3215　●長野と塩尻の製作センターで、夕刊を大きな輪転機で印刷しているところを見てみよう！【製作センター見学の申し込み】長野TEL026-286-6700　塩尻TEL0263-54-5330

8月10日には、伊那市から「はなまる地域探検隊」のみなさんが会社見学に来てくれました！

信毎って　どんなところなーの？

先輩記者も活躍中！その2

中学生記者が信毎の記者を取材

8月11日、豊野中学校3年の荒井美沙季記者が、信毎長野本社を訪れ、地域活動部の井上裕子記者を取材しました。荒井記者は、総合学習の授業で「記者」をテーマに調べ、レポートにまとめるそうです。「取材する上で一番気を付けていることは？」「他の記者が書いた記事に対して、私はこう思う！と違う意見を持つことはありますか？」など、あらかじめ用意していた質問だけでなく、話を聞いていく中で感じた疑問を次々に投げかけていました。

メモを取りながら真剣に話を聞く荒井記者

第10回長野県こども新聞コンクール　作品募集中！

優秀賞などのほか　応募者全員に記念品プレゼント

こども新聞って？　小学生のみなさんが取材して、記事を書いて手づくりする新聞です。テーマは自由。絵や写真、イラストを付けるなどして自分の興味あることを新聞にしてください。

応募について　応募したい人は、近くの信濃毎日新聞販売店へ連絡してください。応募用紙を販売店からお届けします。作品は **2009年8月26日（水）まで** 受け付け中です。近くの販売店に直接届けてください。

問い合わせ　長野県こども新聞コンクール事務局　TEL026-236-3223　／近くの信毎販売店ってどこなーの？など